

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	漢方薬概論	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	鍼灸科	コース名		開設期	通年
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	漢方処方と方位(南山堂)				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	石毛敦／岡安維蓉		実務経験の有無・職種	有：薬学博士	
<b>学習目的</b>					
一般的に良く使われる生薬・方剤について学ぶ。現在の医療の中では新薬以外にも漢方薬が処方される機会が多い。東洋医学では本来漢方薬と鍼灸は補完する関係にあり、同時に用いられることも多い。また、人体の状態を判断した結果の「証」立てに於ける考え方にも共通することが多く学ぶべきことが多い。漢方薬を学ぶことにより身体を理解する力を育てる。					
<b>到達目標</b>					
東洋医学の専門家を自覚し、患者の状態から必要な漢方薬のアドバイスができるようになってもらいたい。実際に漢方薬を処方されている患者に対してその知識があれば、その薬功に相反しない鍼灸治療を選択することができる。生薬・方剤の性質を深く理解し治療に生かしていくことが、患者に対してのより良い方向性ということを理解することが必要である。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	漢方薬の方意を中心に解説を行い、どのような患者に使用するものなのかを講義する。漢方薬を構成するのは生薬であり、その生薬の形状や味から名称が分かるように解説していく予定である。実際に多くの処方されている現実はあるが、多様な生薬の組み合わせで多くの方剤が存在する。代表的な処方なども紹介し、漢方薬の持っている方向性を理解させる。				
注意点	授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできないが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。 課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	100%	講義中に行う質問や試験により評価する。		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	0%				
<b>授業計画(1回～15回)</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	漢方薬と鍼灸の関係	鍼灸師がなぜ漢方薬の知識を持つ必要があるのかをディスカッション形式で講義する 漢方薬の知識を持つことの意義・有用性を話し合い、モチベーションを上げる			
2回	傷寒論とは	傷寒論処方の理解 風邪に使われる漢方薬の解説を行う 一人一人から風邪にかかった時の症状を聞き出し、それぞれの人にある漢方薬は異なることを理解させる			
3回	病期の考え	太陽病期、少陽病期、陽明病期、陰病期の漢方薬の必要性を学ぶ すくなくとも陰病期の症状を呈しているのに太陽病期の葛根湯などは使えないことを講義する			
4回	夏に備える	夏を前に日射病や熱中症を理解させその対処法を漢方薬を含め講義する 熱中症のメカニズムを知ることによって自分を守ることができる 信頼も勝ち取れるようにしたい			
5回	水毒とは何か	夏バテのメカニズムとその対処法を講義する 急性症状を水毒と捉え水毒を改善させる漢方薬を中心に解説する			
6回	水毒に対する処方の応用	水毒を改善させる漢方薬の続きとして、関節痛やリュウマチなどに広く応用する方剤を解説する 鍼灸で痛みを改善させた後の患者ケアについて講義する			
7回	気血水とは何か	漢方では痛みを「通じなければ痛む」としており、気血水を滞りなく流れるようにすることが重要である どのような漢方薬が痛みに適応があるのかを講義する			
8回	頭痛に対する考え方	頭痛について詳しく解説し、どのような漢方薬が使えるのかを解説していく 頭痛を改善させる漢方薬は多く、患者に合わせた治療が可能である			
9回	気虚について	「気」についての解説をし、気虚に用いられる漢方薬を中心に講義を進める 気虚の状態を放置していたのでは気血水全てが滞り症状の改善は望めない			
10回	気滞に対する対処	気滞について解説し、ストレスとの関係の深い漢方薬の使い方に言及する 気分が落ち込むことを漢方的に解説し、それらの対処法などを学ぶ			
11回	血虚とはどのような状態か	血虚の方剤について学ぶ 血虚とはどのような状態なのか?その症状を改善させる漢方薬にはどのようなものがあるのか?今回は月経不順など婦人科処方を学ぶ			
12回	血虚と肌の関係	血虚の続きとして皮膚疾患に用いられる漢方薬を詳細に解説する 血は血液および体液で運ばれる栄養という機能までを含む概念であり、皮膚疾患にも応用される			
13回	冷えを学ぶ	冷えを学ぶ 西洋医学では冷えは病気としてとらえられてはいない 漢方医学では必要な概念であり、対処法は多数存在する 冷えを漢方医学的に詳細に講義する			
14回	冷えを改善する	冷えを改善させる漢方薬の解説をする 気血水どれが乱れても冷えは発症する 症状によって気血水のどこに異常があり、どのような方剤を選ぶのかを学ぶ			
15回	風邪(ふうじゃ)に対する処方	風邪の漢方治療についてもう一度総復習を行う 漢方薬は症状に合わせて風邪に対処するが約40種類を使いこなす必要がある ここでは重要なものについて講義する			